

# ふじみサラダボール子育て情報

「制止をかけるとき」

平成28年2月17日号

板橋富士見幼稚園



## 子どもは、いつも運動選手

子どもはいつも動いています。動かない時は、寝ている時だけかも知れませんね。でも寝ている時もよく見ていると動いていますよね。動いていることが、成長に欠かせないことだと言われますが、では、子どもはいつ動きを止める時があるのでしょうか。

「うちの子は、ちっともじっとしてられない」「おちつきがない」「自分勝手に」「わがままで」「言うことを聞かない」などと思われる経験はありませんか。

「落ち着いて」「じっとして」「まって」など、はらはらしてしまうことも多いかと思えます。実は、子どもは元々じっとしていることが苦手なのです。特に男児は、素早い行動が元々身に備わって生まれてきます。

幼児期は、好奇心や興味関心に引き寄せられて、一時もじっとしてられないのが子どもです。でも、時にはじっとしてもらいたい時や、じっとさせなくてはならない場合があります。子どもは、日々成長しています。1つ1つが学びであり、その1つ1つの学びを幾つも重ねていくことで、価値判断ができるようになっていきます。



では、どんな時に親や先生は、じっとさせようとするのでしょうか。親や先生はそれぞれの価値観の中で、「この時は、静かにさせよう」「この時は、受けながそう」と判断しているのです。

そして、集団で何かする時や、考えて行動しなくてはならない時などは、「制止」させる必要があると判断して促しているようです。

特に、社会の道徳や規範などと向き合った時は、大人の価値観で「制止」させ、他人の迷惑にならないよう促すのです。ご家庭では、どんな時に「制止」させますか。

是非、制止を促す時について、知っておいて欲しいことがあります。

1つ目は、考えさせたい時です。落ち着いて心沈めないと考えは導けません。

2つ目は、状況を客観視させたいときです。みんなはこうしているけど、あるいは、まわりをよく見てと、周囲の行動と合わせたい時です。

3つ目は、物や人と向き合う時です。物を慎重に大切に扱う時や、人と関わる時など、相手の気持ちに触れさせたい時です。このような出会いの場がある時は、しっかり介入して、理解出来るようにしたいものです。

基本は、いつも跳ね回っている子どもが、実は本来の子どもの姿なのです。

でも異常に跳ね回っている場合は、何か課題があるのかも知れません。要注意です。

殆どの子どもは親の言動に反応して顔を見たり、行動に取り入れたりします。

いつもハイテンションの子どもは、時にローテンションになれるよう、少しずつ導いていきましょう。